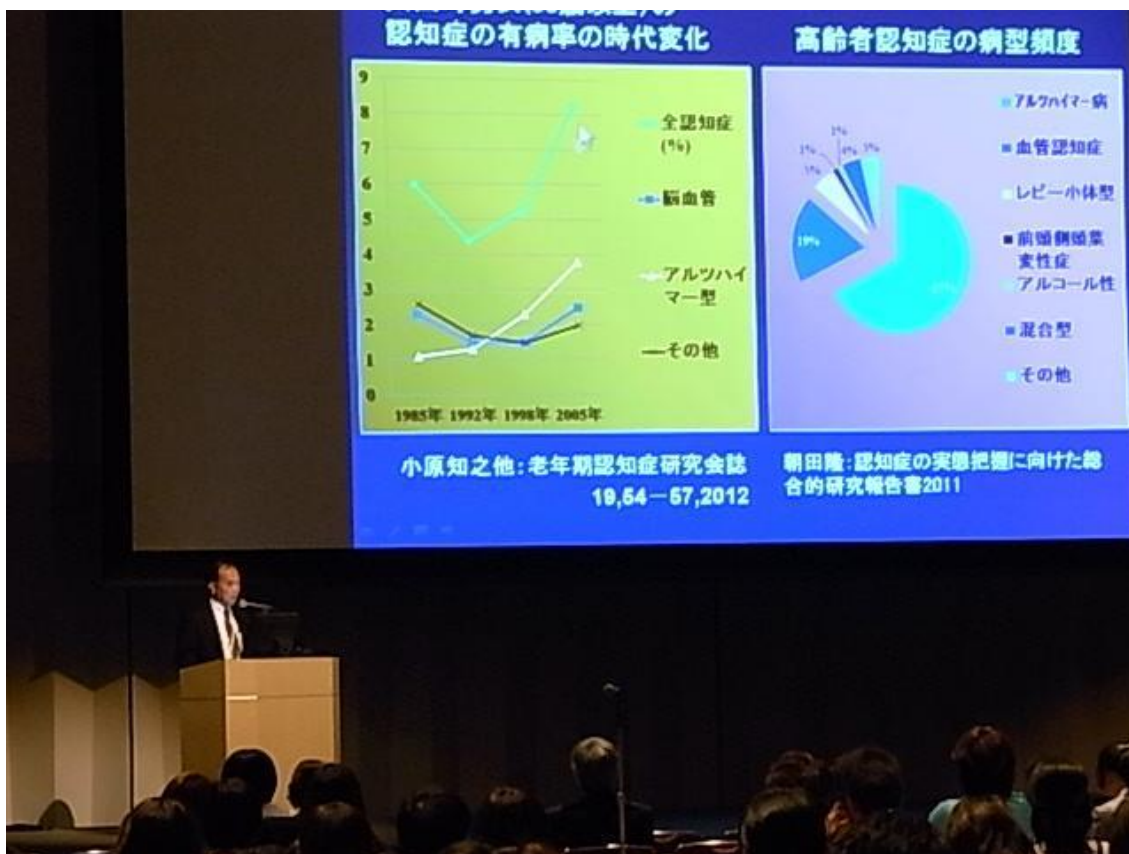


第 57 回 日本糖尿病学会年次学術集会

第 2 日 5 月 23 日 (金) 第 4 会場 大阪国際会議場にて



II-4-11 当院における認知症合併糖尿病患者の実態

島尻 佳典¹, 山里由香利¹, 島尻 公彦¹, 白根 美保¹, 比嘉さおり¹,
又吉 明子¹, 與那嶺正人², 益崎 裕章²

島尻キンザー前クリニック (診療所)¹, 琉球大学医学部第二内科²

【目的】 認知症を有する糖尿病患者の頻度と臨床像を検討する。

【方法】 当院糖尿病外来に2010年10月から2012年12月までに通院した患者315名 (60.0 ± 13.0歳, 女189名) を対象に認知症合併患者の頻度を求めた。認知症を脳血管障害型 (脳型), アルツハイマー型 (A型), その他の型 (他型) の3群に分け, 臨床像を解析した。認知症の型判断は精神科専門医によった。

【結果】 糖尿病一般でみた認知症頻度は3.2% (10/315) であり, 70歳以上に限定すると13.5% (10/74) であった。内訳は脳型が5割で, A型は3割, 他型は2割であった。脳型は介護度や寝たきり度が高く, 自立度も低い症例が多くみられた。他型には認知症改善の可能性のあるレビー小体型認知症が含まれていた。

【総括】 認知症合併糖尿病患者は70歳以上で13.5%であった。脳血管障害型認知症が占める割合が高い。